

柔道ルネッサンススピーチ原稿

実施日 平成 18 年 6 月 25 日

大会名 平成 18 年全日本学生柔道優勝大会

実施者 総合警備保障柔道部監督 小橋 秀規



ただいまご紹介頂きました ALSOK 総合警備保障柔道部監督の小橋です。

ベスト4が出揃いまして、これから更に白熱した試合が展開される事と思いますが、この貴重な時間をお借りしまして、学生の皆さん、どうかほんの少し私の話に耳を傾けて頂きたいと思います。

私は中学から大学までの 10 年間で国士舘で学び、卒業後は更に自分の柔道を発展させようと考え、新たな場を求めて、現在の ALSOK 総合警備保障に入社致しました。

私自身、この間苦しかった柔道の練習や試合を通して、いろいろな事を考えると共に、学ぶ事も数多くありました。この中でもっとも大切だと私が感じていることは、皆さんがどの道に進むにあたって共通するだろうと思いますが、『常に感謝の気持ちを忘れない』という事であります。

現在皆さんは、各大学の柔道部の中で大好きな柔道に精一杯打ち込む事の出来る環境にいるはずです。しかしそれは決して自分一人の力で成り立っているわけではありません。幼い頃から皆さんを応援してくれている家族、また常日頃から親身になって指導してくれる先生方、そして苦しい時、辛い時に励まし合えるかけがえのない仲間達。そういった人達の支えがあって今の皆さん方があると思います。

視点を変えてみれば、またよくわかります。

今日我々がこの社会において豊かに生活できているということも、すべて私達の祖先たちが命がけで国づくりをしてくれたおかげであります。

私達は、日本の歴史に対し、その先祖の人たちに対し、感謝の心を忘れてはいけないということは、ここにいる皆さん方であれば良くわかるはずです。

ところが、気心の知れた仲であればある程、『ありがとう』と言葉で表現するのは恥ずかしいものです。私は、それを否定するものではありません。

仮に口に出せなくとも常に心の中に『感謝の気持ち』を持っておくことが最も重要だと思います。その気持ちは、自然に行動に現れるものだと考えるからです。

どうか、まず感謝の気持ちを持つよう心がけていただきたいと思います。

先ほど述べたように、私は子供の頃から始めた柔道生活を全うしようと思い、柔道部のある今の会社を選びました。社員として仕事をしながら、現役の選手として活動していると、学生時代とは違った環境に気がつきました。

それは、今自分が大好きな柔道に打ち込めるのも、その環境を与えてくれる会社であること、ま

た常日頃から応援して下さる社員がいるという事でした。

そういったことに気が付いていたのは、私だけではありませんでした。多くの部員も同じ気持ちだったのです。そして、我々の中にその社員の気持ちに応えなければならないという気持ちが自然に湧いて来たのでした。

会社を代表しているのだという気持ちが、また柔道に対する支えとなると共に、自分達の実力以上の力を与えてくれたのは、活動してきた自分達が最も良くわかっています。

これから皆さんはそれぞれの進路によって、柔道との係わり方も違ってくると思います。しかし、どの様な場面でも若い皆さんにはこれからたくさんの柔道を通じた人と人との出会いがある事でしょう。

『1つ1つの出会いを大切に。そして、自分の周りの方々に常に感謝の気持ちを忘れない事。』これを実践していけば必ず感謝は、感謝で返ってきて皆さんの力の源になってくるはずです。これこそが、まさに相手がいて初めて柔道が出来る。つまり礼の心、柔道精神にも共通するのではないのでしょうか。

最後にこれから準決勝を迎える選手達に一言声を掛けさせて下さい。

これはまさに私が学生時代、この大会前に当時の国士舘大学柔道部監督である斉藤仁先生から掛けて頂いたお言葉です。

『今しか経験する事の出来ない、またこの先いくらお金を払っても味わう事の出来ない、このプレッシャーを存分に楽しんで試合に臨んで頂きたい。』こう思います。

そして自分を信じ、チームメイトを信じ、観客席で応援してくれているかけがえのない仲間達の声援を力に変えて、精一杯頑張ってください。

ご清聴ありがとうございました。

以上